

# うどんに適した小麦新品種「きぬあかり」を開発

多収で色が明るく、なめらかで、コシのあるうどんができます

## 研究開発の背景

東海地域の小麦の主要品種「農林61号」は、収穫時期が梅雨と重なり収量品質が不安定で、めん加工適性が劣っていた。そこで、成熟期が早く安定多収で、製麺特性が優れる品種が求められていた。

## 研究成果の内容

現在栽培されている「農林61号」より早生・多収で、「イワイノダイチ」に比べて、めん加工適性に優れる小麦新品種「きぬあかり」を開発した。「めん」の食感の改善には日本で初めてのDNAマーカーを用いた選抜技術を活用して生地物性を改善するグルテン遺伝子を集積した。

### 「きぬあかり」の優れた特性

- ・ 収穫時期は「農林61号」より4日早い早生種。
- ・ 収量は「農林61号」より20%程度多収である。
- ・ 耐倒伏性、耐湿性に優れ、水田ほ場での小麦生産に適する。
- ・ 小麦粉の色が明るく黄色みを帯び、色の明るい「めん」ができる。
- ・ アミロース含量がやや少ないため、なめらかな「めん」ができる。
- ・ 生地を強くするグルテン遺伝子を3種類持つため、コシのある「めん」ができる。



現場から消費者へ



## 期待される効果

多収で高品質なうどん用小麦を導入することで、水田営農に貢献できる。また、地場産商品の開発や6次産業化に貢献できる。

導入をオススメする対象 東海地域平坦部の水田担い手経営体